

わずか3年足らずで消滅した旧国がある

陸奥と出羽の2国が陸奥、陸中、陸前、磐城、岩代、羽前、羽後の7国に分割される。

律

令国家の成立で発足した五畿七道の行政区分は、江戸末期まで千年以上続いたが、江戸幕府が崩壊し明治新政府が樹立されたことで、行政区分としての役割は果たされたものと思われた。しかし、明治に入ってから旧国は依然として機能していた。それどころか、新たに誕生した国もあったのである。

66国2島に区分されていた当時の地図を見つみると、陸奥国と出羽国がヤケに大きいことがわかる。両国を合わせた面積は、山城国や河内国の60倍以上もの大きさがある。余りにも面積が広大なため、やがて開発が進んでいくと、行政に支障をきすようになると考えられたのだろう。他国とのバランスを保つ必要性から、明治新政府は1868(明治元年)年、行政組織の再編作業に乗り出した。太平洋側に位置する陸奥国を5ヵ国に分割したのである。

宮城県南部)、岩代(福島県中西部)の5ヵ国である。日本海側の出羽国も、羽前(山形県の大部分)と羽後(秋田県の大部分と山形県の北西部)に分割された。ところが、1871(明治4)年の廃藩置県で、これらの旧国は消滅し、わずか2年7ヵ月で行政区分としての役割を終えることになった。とはいえ、現在でも地域名として受け継がれ、地元の人たちに親しまれている。

陸前、陸中、陸奥の3国を総称して「三陸地方」というが、三陸はともに太平洋沿岸の地域名として使われている。景勝地として知られているリアス式海岸を三陸海岸という。東日本大震災を契機に2013(平成25)年5月には、陸中海岸国立公園の範囲を広げて「三陸復興国立公園」に改名された。三陸海岸沿いには三陸鉄道リアス線や三陸自動車道が走っている。かつて、岩手県南部の太平洋岸に三陸町という自治体もあった。明治三陸地震とか、三陸沖地震などというように、自然災害の名称にも使われている。しかし、「三陸」は明治初期まで存在しなかった地名である。

陸奥と出羽が7カ国に分別される

秋田県=羽後国、と思い込んでいる人が少なくないが、秋田県の北東部は陸奥国だったし、山形県の北西部は羽前国ではなく、羽後国だった。

江戸時代までの陸奥国と、明治以降の陸奥国の範囲は異なる。



陸奥、陸中、陸前の3つの「陸」をとって三陸地方と呼んでいる。

..... 旧国境
—— 現在の県境



0 100km 200